

第56回民生委員・児童委員大会

令和4年2月2日（水）、なかのZERO大ホールにて第56回中野区民生委員・児童委員大会を開催しました。3年に1度の大会であり、民生児童委員の他に関係団体や行政機関などから多くの方にご参加いただきました。新型コロナウイルス感染症対策を十分に取り、検討を重ねて実施しました。



式典

▼小野会長の挨拶

はじめに主催者の中野区民生児童委員協議会・小野会長より挨拶がありました。



▼酒井区長の挨拶



▼大会宣言をする大和地区・涌井会長



酒井区長、内川区議会議長、入野教育長、寺田東京都民生児童委員連合会会長、吉成中野区社会福祉協議会会長よりご挨拶をいただきました。また、田窪杉並児童相談所長、小林厚生委員会委員長、真壁保護司会会長、松本友愛クラブ連合会会長、上村中野区社会福祉協議会常務理事、角地域支えあい推進部長に登壇していただきました。

大和地区・涌井会長が、民生委員・児童委員の発展を目指して大会宣言を行いました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、当日、予定していた2地区の民生児童委員による「研修報告」は、残念ながら延期となりました。（7月に実施予定）



記念講演



テーマ「引き算の縁と足し算の縁

～《がん》ステージ4からの生還～（生き方・家族・医療）」

講師：笠井 信輔氏（フリーアナウンサー）

私は、がんで4ヶ月半の入院生活を送りました。抗がん剤による治療中は、食欲がなくなり1日中食べられなくなったのですが、入院中、ずっと寝ているわけではなく、生活の質を考えながら過ごしました。食事は、病院食にこだわらず食べたい物を食べるようにしました。お見舞いに来た方からは、有名店の焼き肉弁当やおいしいうなぎの差し入れがあり、がんになったことをプラスに考えるようになりました。

以前、震災の取材をしました。最初は震災で亡くなった人のことばかり考え、引き算の発想となったのですが、しばらく経つと取材を通じて「いろいろな方と出会えた」と足し算の縁が増えることを感じました。がんで闘病中、「あれもない、これもない」と引き算の縁を考えるだけでなく、がんになって得た「うなぎ」や病院で出会った「人」を足し算の縁と考えて過ごしました。

入院中、SNSなどでコミュニケーションを取ることで孤独感が解消されました。昨年、入院中に知り合った方と団体を作り「病室にWi-Fiを」と要望したところ、厚生労働省の補助金がつき、病室にWi-Fiを設置することができました。



がんになって得たさまざまな足し算の縁があり、それを大切に考えています。今回、このように中野区の民生児童委員の皆さんともご縁が一つ増えました。

福祉のなかま

No. 5 中野区社会福祉協議会

（地域活動推進課 中野ボランティアセンター担当）

平野 香菜子さん（弥生地域担当）

中野区社会福祉協議会に入職して2年目で、弥生地域の担当をしています。趣味はお城めぐりで、現在は自粛中ですが、また全国各地のお城に足を運べる日がくることを心待ちにしています♪まだまだ新米で分からないことばかりですが、町会や民生児童委員の方々に地域のことを色々と教えていただき、感謝と勉強の毎日です！地域の方々と一緒に弥生地域のことを考えていきたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします！



編集：中野区民生児童委員協議会広報委員会

発行：中野区地域支えあい推進部地域活動推進課民生児童委員担当 電話：03-3228-5582